



国際交流活動 in まつうら

今月は3月の国際交流イベントについてお知らせします！

松浦市国際親善協会 invites you to join our

ENGLISH DAY CAMP

イングリッシュ デイ キャンプ

松浦市国際親善協会では、小学5・6年生を対象に「ENGLISH DAY CAMP」を開催します。

キャンプのテーマは「1日英語のシャワーを浴びよう」です！英語が大好きな児童の皆さんの参加をお待ちしています！

- 【日時】 3月7日(土) 午前10時～午後4時
- 【対象】 市内小学校5・6年生
- 【場所】 生涯学習センター(きらきら21)
- 【講師】 市内ALT、松浦市国際親善協会会員ほか
- 【内容】 クッキング、英語のレッスン、ゲームほか
- 【参加費】 1人 500円(昼食代等含む)
- 【定員】 20人(最少催行人員5人) ※先着順で受付
- 【申込方法】 参加を希望される児童の保護者は、
下記事務局に電話でお申込みください。
- 【受付期間】 2月17日(月)～21日(金)
午前9時～午後5時
- 【その他】 参加決定者には締め切り後、準備品等をお知らせします。
- 【問合せ先】 松浦市国際親善協会事務局(担当:橋本・フィオナ)
(松浦市教育委員会生涯学習課社会教育係内) ☎ 72-1319



天神書簡-福岡事務所便り-



meets!
まつうら

まつうら体験観光ツアー ～訪日外国人観光客誘致へ～

今年度の本市への誘客事業のひとつとして、一般社団法人まつうら党交流公社と連携し、福岡空港に直行便のある台湾、香港、韓国からの訪日観光客をターゲットとしたまつうら体験観光ツアーを実施しました。

なぎなた体験では、松浦高校なぎなた部の皆さんに、実際になぎなたを試合形式で披露してもらい、その迫力一同興奮の様子。参加者も道着に袖を通し、緊張の面持ちでなぎなた体験を行った後は、道場近くの羽黒神社に移動して、いろんなポーズで何枚も写真を撮影する姿が印象的でした。船釣り体験は初めての人が多く、しなる釣り竿に一喜一憂。また、自ら釣り上げた魚が民泊先で夕食の一品となって出されると、参加者は喜んで食べていました。当日のツアーには各国のインフルエンサーも同行の上、取材・撮影が行われており、体験プログラムや民泊などの体験がSNS等を活用して拡散されることで、松浦を認知していただくきっかけとなることを期待しています。

まつうら党交流公社には上記以外にも多くの体験プログラムがありますので、現地の旅行会社にもこれらを紹介しながら、松浦の良さを体験していただけるよう、引き続きこれらの取り組みを進めていきます。



▲なぎなた体験後、羽黒神社で記念撮影

問合せ先

松浦市福岡事務所

☎ 092-406-2180

✉ matsuura.f@city.matsuura.lg.jp



感染症と予防接種について

問 子育て・こども課子育て支援係 ☎内線 146

近年、国内で麻しんや風しんの流行がみられています。

以前に比べると、これらの疾患はかなり少なくなりましたが、感染のリスクがなくなったわけではありません。かつては、子どもの病気であったものも、最近では成人がかかることが多く、その場合には、本人が重症化するだけでなく、家族も感染のリスクにさらされます。これらの感染症の有効な予防法は予防接種です。予防接種は、病気に対する免疫をつけたり、免疫を強くするためにワクチンを接種することをいいます。感染する前に予防接種を済ませることが重要です。

◆小学校入学前に2回目の麻しん・風しん(MR)のワクチン接種を受けましょう

麻しん・風しん(MR)ワクチンは、第Ⅰ期、第Ⅱ期を過ぎてしまうと定期(無料)の予防接種として受けられなくなります。

接種時期は 第Ⅰ期(1回目) 1歳～2歳未満

第Ⅱ期(2回目) 小学校就学前の1年間 です。

※小学校の入学前に、接種が済んでいるかを確認しましょう。
3月31日を過ぎると、有料になります。



わたしたちの郷土 ～文化財は地域の宝～

鷹島海底遺跡調査開始 40 周年記念シリーズ①

「鷹島沖が海底遺跡の調査地に選ばれる」

鷹島沖における最初の調査は、昭和 55 年から 3 カ年にわたり、文部省科学研究費特定研究「古文化財に関する保存科学と人文・自然科学」(研究代表 江上波夫古代オリエント博物館長)の一環として行われました。当時、日本においては沿海や湖沼等の中に遺跡・文化財が包蔵されているにも関わらず、調査研究が欧米諸国に比べて著しく立ち遅れていました。その遅れを取り戻すため、適切な調査方法を確立する必要がありました。調査地点として、昔から漁師の漁網に掛って遺物が数多く引き揚げられており、潮流・風波が穏やかで、水深もそれほど深くはなく、水中調査の方法を研究するには最も適当であることから鷹島海域が選ばれました。加えて、当時の宮本梅治鷹島町長をはじめ漁協、町民の協力体制もあり、調査研究のスムーズな進行が期待されたことも大きな要因とされています。

次回 3 月号の②へ続く



▲鷹島航空写真

問合せ先 文化財課 ☎内線 356